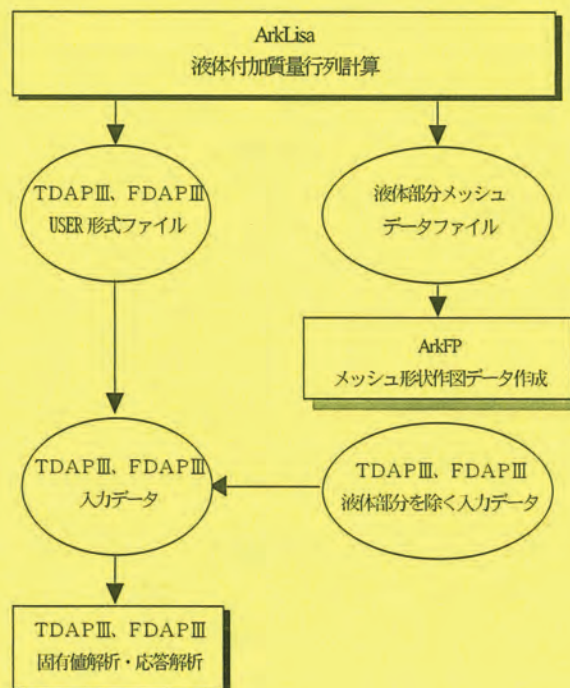


ArkLisa

TDAPⅢ / FDAPⅢ プリプロセッサ

TDAPⅢ / FDAPⅢ 専用液体付加質量行列作成プログラム

- 液体-構造物連成問題を解析する際に、液体部分の付加質量行列をFEMにより作成するプログラムです。TDAPⅢ / FDAPⅢでは構造部分のみをモデル化し連成解析を行うことができます。
- TDAPⅢ / FDAPⅢ単独で不可能な液体-構造物連成固有値解析およびモード重ね合わせ法による液体表面波高の時刻歴応答解析（スロッシング解析）などが可能になります。



要素と境界条件

- ・ 液体-構造物連成面境界条件（連成面要素で指定）
- ・ 液体表面境界条件（表面波考慮の場合、表面要素で指定）
（表面波を無視する場合は、液体表面自由度を拘束）
- ・ 2次元、3次元、軸対称のモデルが扱え、次の要素が使用可能。
（液体要素、連成面要素、表面要素）

出力ファイル

- ・ TDAPⅢ / FDAPⅢユーザ定義要素形式1 (text)
 - ・ TDAPⅢ / FDAPⅢユーザ定義要素形式2 (binary)
- 以上のファイルをTDAPⅢ / FDAPⅢに入力します。

TDAPⅢ / FDAPⅢにおける出力成分

- ・ 液体表面波高（表面波を考慮した場合）
（動水圧は出力されません）

その他の機能

- ・ 軸対称問題ではフリーエ0次・1次が可能
- ・ ArkFPを使用することにより、メッシュ形状作図データの作成が可能（ArkFPはTDAPⅢ / FDAPⅢに添付されますが、作図データの表示には、ArkPlotViewが必要となります）
- ・ TDAPⅢ / FDAPⅢ入力データの変換機能

注意

- ・ 応答解析を行うためにはTDAPⅢ / FDAPⅢが必要です。
- ・ TDAPⅢ / FDAPⅢの液体部分の自由度は液体表面の波高のみとなります。表面波を無視した場合液体自由度はありません。
- ・ 動水圧0の節点があらかじめ特定されている必要があります。

動作環境

- ・ TDAPⅢパッチ版が動作する環境

・ 本プログラムは財団法人電力中央研究所が開発し、(株)アーク情報システムがTDAPⅢ / FDAPⅢ用に変更を加えたソフトウェアです。

定価 Advanced版 450,000 円
 Large版 600,000 円



株式会社 アーク情報システム

問合せ先
〒102-0076 東京都千代田区五番町4の2東プレビル
TEL. 03 (3234) 9232 営業直通・FAX. 03 (3234) 9403